

○プログラム名：消化器外科・学位取得コース

○プログラムの概要（目標、特色など）

従来から大学病院では、臨床医であっても一定期間基礎的あるいは臨床的な研究を行い、学位（医学博士号）を取得することが一般的であり、これらの研究は、医学の進歩に貢献するとともに、臨床医の病態に対する観察力の向上、あるいは、統計学的な立場からの解析能力の向上などに役に立っております。近年の研修医は、学位取得を希望する人が少ないようですが、大学病院や一般の基幹病院で臨床のみならず研究を行なうことを希望する者にとっては今後も必要なものと考えます。このコースでは、まず一般外科医としての臨床能力を備え、外科専門医を取得した後に、学位取得のための研究期間を2年間設定しています。

当科は食道から肛門までの消化管疾患、肝・胆・膵疾患の診断から治療までを行っており、消化器外科医を目指す研修医に、すべての臓器において高いレベルの診断能力と各種検査（内視鏡、超音波など）・手術手技を身につけることが可能です。後期研修はまず日本外科学会認定の外科専門医の取得を目指し、呼吸器・内分泌外科、心臓外科、血管外科、乳腺科、麻酔科などとの協力体制により、各科をローテートし、各種疾患の診断・治療（手術手技や周術期管理）を習得し症例を経験します。また、消化器外科では上部消化管グループ、下部消化管グループ、肝胆膵グループ、小児外科グループをローテートし、手術症例を中心に、手術手技や周術期管理を研修します。その後は関連研院にて一般外科・消化器外科の研鑽を積みます。外科専門医を取得後、学位を取得するため、東京医科大学基礎医学教室や関連施設（国立がんセンター研究所、国立成育医療センター研究所など）にて2年間の研究を行います。国立がんセンター研究所との共同研究では、病気の診断や治療方法の選択を可能にする最先端の血清タンパク質の解析（プロテオミクス）を行っており、個々の患者に適したテーラーメイド医療を目指しています。

○年度毎の研修内容（例）注：4年目以降は、希望に応じて研修内容が異なります。

（学位取得コース）

1年目	外科各科をローテート
2年目	消化器外科をローテート
3年目	関連研修病院にて一般外科・消化器外科を研修
4年目	学位研究，外科専門医取得
5年目	学位研究
6年目以降	学位取得後，大学病院または関連病院にて消化器外科の研鑽を積み，消化器外科専門医の取得を目指します。

○週間スケジュール（例：消化器外科上部消化管ローテーションの場合）

	午前	午後
月曜日	病棟業務（又は外勤）	病棟業務（又は外勤）
火曜日	病棟業務	手術 症例検討会
水曜日	教授回診	病棟業務
木曜日	病棟業務（又は外勤）	病棟業務（又は外勤）
金曜日	内視鏡検査	手術
土曜日	モーニングカンファレンス，病棟業務	

○取得できる資格

外科専門医（日本外科学会），消化器外科専門医（日本消化器外科学会），日本消化器内視鏡学会専門医など

○プログラム終了の評価・認定方法

外科専門医と学位を取得した時点でプログラム終了と評価します。

○処遇・待遇

・初期の3年間は後期研修医として月額20万円が支給されます。当直を行った場合に

は1回につき9800円が支給されます。

- ・週1日（半日ずつであれば2日）の院外勤務が可能です。これに対する給与は勤務先から支給されます。
- ・月1～2回の土日当直を紹介します。
- ・健康保険，厚生年金，労災保険に加入します。
- ・4年目以降の処遇に関しては，病院の規定に従います。

○その他

ラボセンター（ブタを使用）を用いた手術研修を定期的に行っており，これにより開腹・閉腹，腸切除，消化管吻合，ラパコレ，脾摘，各種内視鏡下手術の基本的な手技を経験年数別に早い段階から，より実践的に研修することが可能です。また，6年目以降，国立がんセンター中央病院・神奈川県立がんセンターなどへの国内派遣研修や米国ジョンズ・ホプキンス大学などへの海外留学が可能です。